

# R-ネット瓦版 第3号

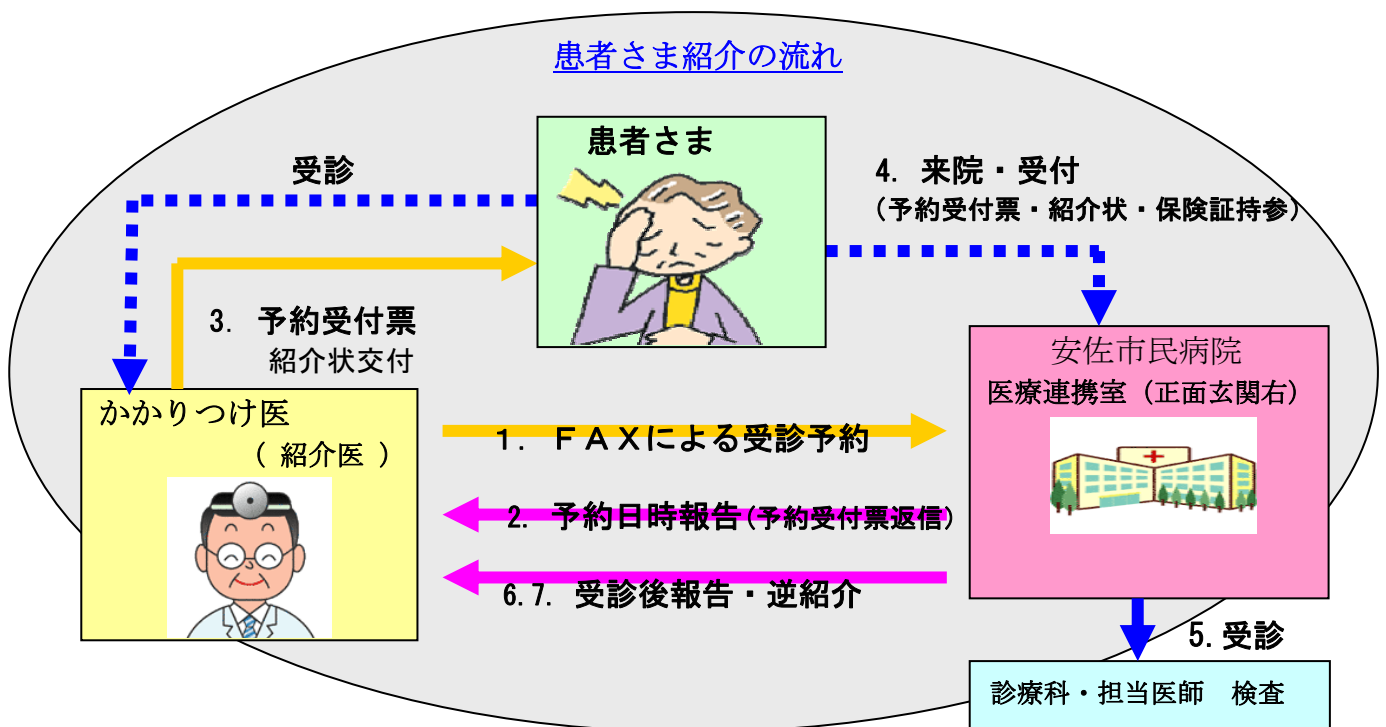
## 逆紹介率向上への取り組み(地域医療支援病院の指定をめざして)

日常の診療については地域の診療所で行い、いったん急性期疾患に罹患したときは診療所から急性期病院へ転院し、そして病状が落ち着いたときには再び地域の診療所へもどるといのがいわゆる、かかりつけ医と地域医療支援病院の概念と思われます。このような観点から広島市立安佐市民病院では、地域の病診・病病連携を強化し、地域住民に、より良好な医療を提供する目的で地域医療支援病院の指定をめざしています。

医療法第4条に、地域医療支援病院の要件として紹介率と逆紹介率が規定されており、例えば紹介率が40%であれば逆紹介率は60%以上必要というようになっていることから当院では、地域医療支援病院の指定をめざすために、逆紹介率の向上にむけての取組みを行うことにしました。

この場合、紹介率は、紹介状を持参した患者数に紹介状のない救急入院患者を加えた数を、全初診患者数から紹介状を持参しなかつた休日・夜間の救急外来患者数を引いた数で除したもので、逆紹介率は、診療情報提供料を算定した患者数を、同様に全初診患者数から紹介状を持参しなかつた休日・夜間の救急外来患者数を引いた数で除したものです。当院の紹介率は現在50%を上回っておりますが、逆紹介率が60%をわずかに下回るため、このたび逆紹介率向上への取組みを強化することとなったものです。具体的には、出来るだけ多くの患者さまに対して診療情報提供書を作成し、紹介して下さった医院、あるいは地域の診療所へ逆紹介するよう働きかけております。

R-ネット瓦版編集委員 久松和史



## “チーム医療の一員として看護の専門性を発揮” 【認定看護師(certified Expert Nurse)と活動を紹介します】

医療が高度で専門分化し、変化する保健医療福祉環境の中で、看護の役割が拡大し臨床においても質の高い看護ケアが求められるようになり、専門性の高い看護技術を用いて看護実践のできる認定看護師が必要になってきました。

平成19年度現在、皮膚・排泄ケア、感染管理、糖尿病看護、救急看護、がん化学療法看護の5領域で、認定看護師が活躍しています。また、平成20年には、ホスピスケアの認定看護師が誕生する予定です。

### ◆日本看護協会認定「皮膚・排泄ケア認定看護師」 中野 真寿美

院内では主に、ストーマを持つ患者様や褥創のケアに病棟や外来で求められるときにすぐに対応しています。また、褥創対策チームとして褥創発生予防に取組み成果を出しています。

院外では、ストーマ患者会や研修会、大学などで講師として指導や教育を行っています。

### ◆日本看護協会認定「感染管理認定看護師」 大野 公一

医療関連感染を防止し、患者様のみならず職員の安全を確保するため、組織横断的に活動しています。感染管理に関する教育、マニュアル作成、サーベイランス、アウトブレイク時の対応を積極的に実践しています。

平成18年9月より「感染ネットワーク」を立ち上げ、地域の医療従事者を対象に指導、教育を行っています。

### ◆日本看護協会認定「糖尿病認定看護師」 澤本 典子

クリティカルパスに沿って糖尿病専門医、糖尿病療養指導士の看護師・管理栄養士・理学療法士・薬剤師・検査技師と連携をとり糖尿病の自己管理ができ、その人なりの健康的な生活が継続できるよう指導、教育を行っています。

### ◆日本看護協会認定「がん・化学療法認定看護師」 佐々木 恵子

抗がん剤治療について、最新の専門知識、技術を用いて副作用に対するケアや療養生活の指導や相談を行っています。また、患者・家族が理解し納得された上で治療にのぞむことができるよう、意思決定や心理・社会的な支援を行っています。

### ◆日本看護協会認定「救急看護認定看護師」 越道 香織

救急看護領域において、救命技術から危機的状況にある患者及び家族への精神面の看護にいたる幅広い救急看護領域の知識や技術を習得しております。これからは、看護実践を通し、患者・家族に対して、緊急度・重症度に応じた質の高い看護を提供するために、医療スタッフとの連携やお互いに理解し、尊重しあえる関係を大切に役割を果たしていけるよう活動していきます。



**各診療科のご紹介シリーズ第3回**  
**《神経内科》**

当科は、2005(平成17)年10月に開設されました。「愛と誠の精神をもって医療を提供する」、「地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行う」という当院の基本理念のもと、当科は、「地域の基幹病院として、全ての神経疾患に対して高度の医療を提供するとともに、それを担う優秀な神経内科医を養成する」ことを理念として掲げています。

脳神経外科、リハビリテーション科、循環器科、放射線科を初めとする他科のご協力のもと、脳梗塞を始めとする救急診療に取り組み、現在入院患者のほとんどが緊急入院です。病棟は、北4病棟、南2病棟、南4病棟を始め複数の病棟を使っています。

**神経内科スタッフ紹介**

**黒川勝己**（内科部長）：平成元年卒、神経内科専門医。もちろん神経内科全般を診ますが、神経内科のサブスペシャリティーは、末梢神経・筋疾患です。電気生理学的検査を用いて、責任病変の同定を行う専門医の資格も取得しています。

**神経内科レジデント紹介**

**山崎 雄**：平成14年卒。広島市民病院で研修の後、当院に赴任しました。病棟長として、また救急診療の実動部隊として活躍しています。火曜日午前の神経内科外来を担当しています。

**杉浦智仁**：平成16年卒。当院循環器科の後期研修プログラムにて赴任し、現在神経内科での研修を続けています。病棟担当医、救急診療の実動部隊として活躍しています。金曜日午前のリハビリテーション科外来も担当しています。

**平成18年度の入院患者**

平成18年度の入院患者数は、222名でした。内訳は、脳血管障害が96名、次いで神経感染症（髄膜炎・脳炎）、てんかん・めまいなどの発作性疾患、内科疾患に伴う神経障害、ギラン・バレー症候群などの末梢神経疾患、

脊椎脊髄疾患、パーキンソン病関連疾患、認知症の順でした。

急性期脳梗塞に対して、2年前から使用可能となったtPAの使用患者数は、本年10月現在で8名です。これは、脳梗塞入院患者の4.7%にあたります（全国平均は1%）。

**神経内科外来**

現在、神経内科外来は火曜日と木曜日の午前中にしております。患者様をご紹介いただく際には、原則火曜日・木曜日となっておりますが、他の曜日に来院された場合にも内科8診あるいはリハビリテーション科2診にて診察を致します。また、急患の場合には、その都度中央処置室にて対応しています。

**神経内科外来診療・検査一覧表**

		月	火	水	木	金
午前	内科6診		山崎		黒川	
	内科8診					黒川
	リハリ科 2診	黒川		黒川		杉浦
午後	頸部超音 波検査			山崎		杉浦
	電機生理 学検査	黒川	黒川	黒川	黒川	黒川

電気生理学的検査は、末梢神経伝導検査、針筋電図検査、各種の誘発電位検査などを行っています。

今後とも、地域の先生方のご指導ご協力を戴きながら、診療に努めて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

（神経内科部長 黒川勝己）

《脳神経外科》

安佐市民病院脳神経外科の開設時（平成3年11月）より主任部長であった沖修一先生の後任として、平成19年10月1日より着任いたしました佐藤秀樹です。私は、昭和61年に広島大学医学部を卒業し、広島大学医学部附属病院、北九州総

合病院、松山赤十字病院、県立広島病院など多くの病院で研鑽を積んで参りました。特に前任地の県立広島病院には約8年間在籍し、脳血管障害・重傷頭部外傷などの救急医療を始めとして脳腫瘍・先天奇形（二分脊椎・狭頭症や水頭症）など多くの分野の疾患（まさに新生児から高齢者まで）を経験させていただきました。また、平成7年の阪神・淡路大震災の時は大学病院の救急部に在籍していたこともあり、広島大学から派遣された救援隊の一員として約1週間神戸の長田地区で医療活動を行ったことがこれまでで一番印象に残っています。

安佐市民病院の各科に以前より知っている先生がおられ、また臨床面でも優れた先生方が多いので非常に心強く感じております。診断機器はCTはもちろんのことMRI、3D-DSAなどもそろっており、手術機器では、当院は日本で最初にライカ製手術顕微鏡が導入された病院であり術中のナビゲーションも可能です。当科では、患者様により良いQOLで過ごしていただくために、患者様とご家族に対して十分なインフォームド・コンセントを行い、より安全で確実な検査・治療を行うように努め、脳外科スタッフが一丸となって「patient first」をモットーにチーム医療を行っていきます。安佐地区の脳神経疾患医療のために微力ではありますが一生懸命努力しますので、なにとぞよろしくお願いたします。

### 脳神経外科スタッフ紹介

**佐藤秀樹**（昭和61年卒）：未だに病院内で迷って廊下をウロウロしています。電子カルテも初心者で「要経過観察」の状態です。特に当直の時は電子カルテの前で悪戦苦闘しています。日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本救急医学会専門医、日本集中治療医学会専門医です。

**磯部尚幸**（平成2年卒）：日本脳神経外科学会専門医と日本脳卒中学会専門医です。現在のスタッフの中では最古参で、他科の先生方からも信頼が厚く、学会活動などにも獅子奮迅しています。脳血管障害・頭部外傷を中心に脳腫瘍なども幅広く対応しています。

**村上太郎**（平成 年卒）：日本脳神経外科学会専門医です。現在、大学で実験を行ない的研究中です。（もう少しすれば大論文が完成するはずです）。非常に明るい性格でスタッフの中ではムードメーカー的な存在です。臨床面では顕微鏡手術をマスターしていく予定です。

### 《脳神経外科レジデント紹介》

**黒川泰玄**（平成14年卒）：来年の日本脳神経外科学会専門医試験に向けて、勉強を開始したところです。救急を含めて多くの症例を幅広く経験し、日常診療から手術・学会活動まで忙しくこなしています。

**瀬山 剛**（平成17年卒）：2年6ヶ月間、大学で研修を積んできました。10月1日に着任したばかりのフレッシュマンです。電子カルテでは部長よりずっと上達が早く、時々部長に操作方法を教えています。責任感が強く、コメディカル・スタッフとも上手にコミュニケーションがとれています。今後は脳神経外科医として広い知識と技術を習得して、臨床・学会など積極的に活動していきます。

### 《脳神経外科外来》

外来は、火曜日と木曜日は手術日のため1診体制ですが、他の曜日は2診体制で診療に当たっています。科としての特性から救急対応が多く、緊急手術等のために外来診療一覧表通りのスタッフで対応できないこともあろうかと思いますが、可能な限り対応させていただこうと考えていますのでご了承ください。脳神経外科・神経内科で救急対応する当番医を毎日待機させていますので、脳神経疾患で緊急を要する場合は電話で直接ご連絡いただけましたら幸いです。

### 脳神経外科外来診療一覧表

	月	火	水	木	金
1診	佐藤	村上	佐藤	磯部	佐藤
2診	村上		磯部		黒川

（脳神経外科部長 佐藤 秀樹）



平成19年8～10月 病床利用状況

		新入院患者数	退院患者数	平均在院日数	利用率
内科	総合内科	1	1	-	-
	循環器科	285	275	8.2	-
	消化器科	365	340	11.3	-
	内分泌科	40	42	15.5	-
	呼吸器科	115	121	29.9	-
	血液内科	56	56	37.4	-
	神経内科	85	81	18.2	-
	検診科	0	0	-	-
	救急科	0	0	-	-
	内科計	947	916	15.0	111.1
外科	343	351	15.8	99.2	
整形外科	274	273	21.6	152.7	
脳神経外科	109	97	23.9	75.0	
心臓血管外科	82	84	26.5	80.5	
小児科	147	142	5.6	50.9	
産婦人科	355	353	8.9	102.0	
皮膚科	53	55	13.6	394.6	
泌尿器科	126	127	9.7	124.2	
耳鼻咽喉科	71	66	16.6	112.2	
眼科	123	120	10.1	109.3	
神経科	18	21	37.5	25.0	
放射線科	27	32	32.1	26.7	
麻酔科	32	28	9.7	19.5	
リハビリ科	1	2	86.5	5.3	
合計	2,708	2,667	15.0	83.0	

医療連携システム利用状況(件数)

依頼内容	H19年		
	9月	10月	11月
C T	87	140	95
X 線	3	8	0
MRI	20	30	18
内視鏡(胃)	26	42	29
その他エコー等	7	13	21
外来予約	664	815	746
総計	807	1,047	909
1日平均予約数	44.8	47.6	43.3

\*\*\*お願い\*\*\*

紹介状・診療情報提供書の  
使い分けについて

通常の診療予約の場合

予約紹介状・診療情報提供書(予約申込書)

急患の診療依頼の場合

予約紹介状・診療情報提供書(急患用)  
上記のごとく“急患用”として用紙を別運用しております。

急患として紹介いただいた患者さまの情報提供としてファックスしていただく場合にご利用ください。

お手数ですが、速やかな診療を行うため事前に紹介診療科医師にご連絡の上「予約紹介状・診療情報提供書(急患用)」の送付をお願い致します。

広島市立安佐市民病院 医療連携室

TEL 082-815-5211(内線 3250)

FAX 082-815-5691

『R-ネット瓦版』編集WG

代表 多幾山 渉



明けまして  
おめでとようございます。  
本年もよろしく  
お願い申し上げます。